

# 養殖ノリのバリカン症原因調査における 間欠駆動式水中ビデオカメラの活用

水産土木工学部

## 研究の背景・目的

「バリカン症」とは、養殖ノリの芽が短期間のうちにバリカンで刈ったように短くなる現象で、生産に大きな被害を与える。原因は、河川水や降雨による淡水、高水温等の生理的障害、食害等、諸説があり確定されていない。大分県農林水産研究センター水産試験場浅海研究所では、食害説についての検証調査を実施しているが、実際に生じている現象を視覚的に捉えるため、漁場施設研究室で開発した間欠駆動式水中ビデオカメラを使用した調査を行った。

## 研究成果

ノリ網を斜め下から撮影できるよう設置し、約10日間の映像記録調査を行った(写真-1)。その結果、ボラが群れを成し、ノリ網から直接ノリ芽を食べている行動が観察された(写真-2)。また、スズキ等の魚類や大量のアミ類の蝸集も確認された。撮影対象範囲において、バリカン症が発生しなかったことから、バリカン症の原因がボラによる食害であると結論することはできないが、大きな可能性の一つであること、また、間欠駆動式水中ビデオカメラが本調査に有効な手法であることが実証された。

## 波及効果

本調査を進めることで、大分県下での養殖ノリバリカン症対策に関する検討が深まる。さらに、他県からも、バリカン症原因調査における間欠駆動式水中ビデオカメラ使用の問い合わせがあり、広域的な調査の展開が期待される。



写真-1 間欠駆動式水中ビデオカメラ設置状況



写真-2 カメラが捉えたボラの群れによるノリ芽食害

(大分県農林水産研究センター水産試験場浅海研究所・伊藤龍星, 林 亨次)  
(漁場施設研究室・森口朗彦, 高木儀昌)